



「東都生協ラボ」の研究員がSDGsの17項目をテーマごとに研究発表！

3階の会場入口。「各ブースのクイズに答えてスタンプを集めてね」と笑顔で渡された水色のスタンプカードを片手に研究室に入場、ミッション開始！

SDGsの17の目標にちなんだブースにそれぞれ資料が掲示・展示されて、研究員が来場者に内容を解説しています。木製のおしゃれなおブジェ、かまぼこ板がこんなにたくさん！とビックリして近づくと、間伐材の積み木でした。自由に発想できるし、おうちにあってもイイ感じです。

ちょっとホックリしたところで、**目標14「海の豊かさを守ろう」**がテーマの「私が石けんを使う理由」のブースへ。

「石けんは自然に分解されるのに対し、化繊は分解されずにマイクロプラスチックとなり、いずれは私たちの体に残りますよ」東都生協の学習会で石けん会社の方の言葉に感銘を受けて活動を始めたと一と会メンバーの解説に衝撃。アクリルタワシは洗剤不要でエコだと思っていましたが、必ずしもそうではないということに気づきました。

次に**目標5「ジェンダー平等を実現しよう」**のブース、「一つひとつの不平等をなくし誰もが平等に生きられる世界にしよう」「アンコンシャスバイアスってな～んだ」では、掲示されていたのが小学校の授業のまとめだったことが驚きだったようです。今の小学校ではジェンダーについて学んでいるのです。

アンコンシャスバイアスとは、無意識

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」ブース

SDGs☆ワークショップ

●アップサイクル

※不用になった物を再利用して、以前よりも価値の高い物を作り出すこと

「ハギレ革でつくるSDGs キーホルダー」
皮革製品のハギレで、キーホルダーパーツやさまざまなモチーフのチャームやスタッズ、カラフルなハトメなどをデコレーション。



体験コーナー

待ちが出るほどの人気！

●国産間伐材を使用したかまぼこ板型の積み木コーナー

小学生がチャレンジ！
「自分の身長以上に高く積み上げることができたのが意外。倒すのが楽しかった」



常識のアップデートしてありますか？

9月30日(土)

東都生協ラボ みんなで考えよう SDGs (親子イベント)

の思い込み・偏見のこと。年別のランドセル色ランキングは、意識の違いが分かりやすく見て取れる内容となりました。

目標4「質の高い教育をみんなに」のブースでは、日本語の上に現地の言葉のシールを貼った絵本と、それを読んでミャンマー・ラオスの子どもたちから届いたお礼のグリーティングカードも掲示。

目標3「全ての人に健康と福祉を」のブースでは「猫は化学物質由来の香料が代謝できない」、**目標6「安全な水とトイレを世界中に」**では「歯磨き粉の使用量を減らす」「入浴剤の回数

数を減らす」にヒヤリ。知らず知らずに環境に負荷をかけていることが分かりました。どのブースでも学びが得られて大満足。

SDGsは、子どもたちにとって常識とされています。親世代以上の皆さん、大丈夫ですか？

東都生協ラボ、子どもたちに豊かで誰もが希望の持てる未来を手渡したいと願う一人の親として、小さなことから、できることから取り組みたいと思わせてくれる内容となりました。



スタンプラリー

SDGsの17のテーマに沿ったクイズを設置

SDGsロゴのスタンプ(ゴム印)は50周年実行委員による手作り！



目標4「質の高い教育をみんなに」ブース



目標14、目標3、目標6のポスター発表

ありがとう50年



第1弾

～いつも、そしてこれからも～

1973年に誕生した東都生協は、昨年設立50周年を迎えました。会場のJA東京南新宿ビルでは2023年9月26日(火)～30日(土)に「東都生協50周年感謝祭 Tohto Week」を開催し、「食べる約束とつくる約束」で結びついた産地・メーカーの皆さんと組合員が熱く語り合う交流会やSDGsラボなど、感謝の気持ちを伝え合う機会としました。その5日間の様子をお伝えします。



会場 JA東京南新宿ビル



練馬区在住 川上さん

供給担当者に「何人家族なんですか？(3人家族)」と聞かれるほど毎回の購入量はすごいです(笑)特に野菜は大のお気に入り。障害のある人たちの働く場である洗びんセンターをびんのリサイクルで応援しています。

お楽しみ抽選会開催

墨田区在住 水尻さんご夫妻
「楽しみに来たら、完売も多くてびっくりしました！」
ジャムを購入しました。



世田谷区在住 塚越さん

「参加賞だけでもいいかなと思って来ました。」なんと、三等賞が当たりました！



何が当たるかな～

御茶ノ水フェアビンデン製造

各日限定20食で東都生協の食材を使ったお弁当も販売。近隣の会社員や「お弁当がおいしかった」と、2日間連続で来場した男性も。「ご飯が冷えても、もちもちしておいしかった」と組合員の声。



会場の様子

いらっしやいませ！50周年にふさわしい「食の感謝祭」そのものにぎわい。

全国から集まった おいしいものマーケット

(商品を知り・購入できる広場)

小川珈琲(株)【コーヒー】



・期間限定「秋珈琲」
初日は開店20分で完売！
エチオピア産豆。
「お芋や和菓子に合うあっさり味に仕上げました」
「スペシャルマイルドブレンド」
「コンレリア産豆」
おなじみの味でミルクとベストマッチ。

試飲&販売コーナー

2種類の試飲と商品販売

(有)人と農・自然をつなぐ会【日本茶・紅茶】

・無農薬・有機栽培で不動の人気
緑のパッケージの「やぶきたみどり」
・オレンジのパッケージの有機和紅茶
「瀬戸谷もみじ」
・洗みが少なく自然な甘みで
ストレートがお薦め！



商品



「りんごを購入しましたが、産直の果物はいいですね」
お目が高い！(会社員)

50周年感謝祭 Tohto Week第2弾

2024年2月27日(火)～3月2日(土)

JA東京南新宿ビル(第1弾と同じ場所)。内容もパワーアップ、お楽しみも勿論倍増！次回もお見逃しなく、足を運んでみてください。お待ちしております♪

誰もが安心して暮らせる社会のために /

未来につなぐ募金

東都生協では、誰もが健康で安心して暮らし続けることのできる地域社会の実現を目指す活動(団体)を応援、助成を行っています。組合員一人ひとりの思いを寄せ合い集めた募金を、東都生協の商品に換えて応援する仕組みです。毎号、助成団体を紹介していきます。

200円から
支援
できます

募金方法は、注文書の特別企画注文欄「商品(申込)番号」に【365920】の6桁番号を記入し、「数量」欄に募金の口数を記入してください。
1口200円です。
※とうとねっと、スマートフォン用注文アプリ「スマ注」、FAX専用注文書、電話注文でも募金ができます。



団体名 レッツごはん

設立 2018年6月 ボランティアの受け入れ あり
代表者 三浦寿夫さん 広報ツール 公式LINEアカウント(教会)掲示板
活動拠点 町田市
活動内容 子ども食堂、パントリー、学習支援
メンバー チーム・レッツごはん有志

助成団体紹介
Vol. 04

おいしくて
おかわり
したよ!



食事の様子

おいしい顔、楽しい顔、とにかく明るい子ども食堂がここにありました

残暑の厳しかった2023年の夏、8月23日に町田市のつるかわ台教会会堂はおいしい匂いに包まれていました。それは「ウクライナ風ラタトゥイユ丼」。食べやすいように子ども用とおとな用の2種類が用意されていました。

市開催の子ども食堂立ち上げ勉強会に参加した副代表の三浦奈穂子さんから輪が広がり、有志が集まって2018年から活動開始。その後、ボランティアの一人で東都生協組合員の大村晶子さんが「未来につなぐ募金」の募集案内を目にして申請へとつながりました。コロナ禍前後で訪れるメンバーが7割入れ替わりしましたが、随時30人~40人程の利用があり、密を避けるために調整するアプリも上手に利用してきました。見るだけでもワクワクするLINEの広報(左上の写真)もあり、パントリー利用者も食事をする人も、誰もが気軽に会話しながら楽しそうに食事をする姿が印象的でした。食後もスタッフや参加者同士、多世代にわたっておしゃべりしたり、子どもたちが駆け回ったり!

参加していた育休中のママは「(来月また)ここに来るのを楽しみに育児も頑張れます」。お互いを見守り合うような参加者の表情は温かく、地域の安らげる交流の場所となっています。参加者から、募金企画へ感謝の言葉をたくさんいただきました。



団体名 おおた たすけあいひろば

設立 2021年12月 広報ツール チラシの配布、大田区社会福祉協議会のホームページイベント欄への掲示
代表者 佐々木透さん
活動拠点 大田区
活動内容 食料品、生活用品などの無料配布、生活相談など支援活動
メンバー 常勤スタッフ5人 非常勤スタッフ5人 ボランティア5人
ボランティアの受け入れ あり

助成団体紹介
Vol. 05

もうすぐ開店、
スタンバイOK?

地域でつながるネットワーク

訪問した9月23日は9回目となる食料品、生活用品などの無料配布日。準備に大忙しのスタッフとボランティア。団体の認知度も高く、早くから人が集まりだし、また雨ということもあって予定時間よりも少し早めに整理券を配布。対象者は「どなたでも」ということで親子連れから年配の方までさまざまな方が建物の中へと入ってきます。「いつもありがとう」「助かっています」とうれしい声がところどころから聞こえ、用意した約100セットは1時間少しで終了。

しかし終了後の反省会では課題もいくつか見えてきます。住宅街での配布は近所に迷惑をかけないように...また食品類の寄付のお願いにもまだまだ多くの声掛けが必要です。

コロナ禍で生活困窮に陥る人たちの少しでも力になりたいと立ち上げた団体。何でも相談(生活・労働・医療)ではベテランの専門職の手を借りながら、地域の人たちにとってこれからも身近なところになればうれしいと、やる気満々笑顔がステキな皆さんでした。

東都生協から届いた、たくさんのおもてなし



開店を待つ人々たちで外はにぎやか

9月26日(火)14:00 「産直シンポジウム」

~これが東都生協産直の生きる道~

東都生協産直生産者団体協議会の4人のリーダーと風間理事長が、生き残るための現状認識と課題、今後の展望を語り合いました。生産者と消費者が対等な立場で議論できる交流の場が大切であることを確認しました。



永年取引表彰



南山形南陽のんのん倶楽部
鈴木 秀男さん

松亀味噌(株)
阿部 孝司さん

シンポジウム



紀ノ川農協・松本専務理事がコーディネータを務め、JAやさと・廣澤専務理事、(農)埼玉産直センター・山口代表理事、(農)ながさき南部生産組合・近藤会長代表理事と風間理事長がパネリストとして登壇

9月29日(金)

「東都シアター」

映画
夢みる小学校
「自分のままでいいんだよ」
(監督・撮影:オオタヴィン)

テストや宿題、通知表、校則もない子どもファーストな小・中学校のドキュメンタリー映画。



温故
知新

東都生協は新しい一歩を踏み出します。

50周年を迎えた今、あらためて東都生協は国内農業と国産品の重要性を認識し、食料自給率向上に向けて、組合員、産地・メーカー、職員がしっかりと手をつなぎ持続可能な食と農の実現を目指します。第二の創業期ともいえる大きな節目、だからこそ基本に戻ります。と同時に、未来に続く持続的な事業と運動の再構築を進めます。今年4月からは「新・組合員活動スタイル」の開始です。東都生協はこれからも、未来に向けて地域や社会とつながり、変化する時代環境にしっかりと適応して、新たな時代に挑戦していきます。

9月27日(水)・28(木)

交流広場

長きにわたり東都生協との関わりを深めてきた産地・メーカーと組合員の交流企画は「時間が足りない!」と延長戦の願いが続出でした。



3階
では

「交流広場」 まなびのフェスティバル

(食と農を学び・交流できる広場)



トーエー食品(株)

どうけ
道家 一人さん

トーエー食品(株)は、今年60周年を迎えました。久しぶりの交流で、ノンカップや包材について、自然由来のものを使っているメーカーのこだわりを伝えられたと思います。

(有)どさんこ農産センター

二川 英司さん

降雪量が多く、収穫した作物を「雪氷室貯蔵施設」で低温貯蔵することができず。「雪は宝物」なんです。一番忙しい時が一番楽しい時ですね。

(農)埼玉産直センター 山崎 素治さん

(農)埼玉産直センターも同じく2023年で50周年。これまでずっと野菜を食べてもらって感謝しています。かつて豪雪被害の際、肥料センターの再建に東都生協の支援があったことを今でも感謝しています。

交流ひろばに
参加しての
感想

- ・実際に話を聞くことによって、その一つの商品(作物)がどんなに大変で、どんな思いで作っているのかがよく分かりました。
- ・東都生協の商品...どれもすごいこだわりがあることにビックリ!!
- ・地球温暖化が作物に与える影響が脅威となってきている。このままではいけないと切に思いました。